

とあるお屋敷の
地下室。

ふあ…

あれ？
俺いつの間に
寝てた…？

つか
ここどこだ…？

うわっ！
なんだこれ！
動けねえ！

なんで俺
縛られてんだ！？

洋太様、お静かに。
今からあなたの
置かれてる状況を
説明します。

コイツ…確か
メイドの凛…！
何考えてるか
わかんねえやつだ！

んぐ？！

ここはお屋敷の
地下室です。
この部屋が存在は
メイドの者しか
知りません。

地下室…？
この家にずっと
住んでるけど
そんなの全然
聞いてねーぞ！

洋太様には
当面この部屋で
監禁生活を送って
いただきます。

…は？は？
この女は突然
何言ってるんだ？

つか全然説明に
なってるねーし



ああ、申し訳
ございません、洋太様。
うっかりおならを
してしまいました。

口を塞いでいますので
鼻で呼吸してもらいますか
ありませんね。



そんなに臭いんですか？
死んでしまいたいですから
我慢してもらいますか
ありませんね。



メイドの私に
こんなことされて
さぞ屈辱でしょう。
ですがこれは
私にとつての
復讐なのです。

あなたはこの数年間
メイドの私に毎日
陰湿な嫌がらせや
暴力をされてきました。

メイドの立場上
抵抗できませんでしたが
あなたに對する怒りは
確実に私の中に積もって
いきました。

そして私の中の
怒りはとうに限界を
超えました。
これから長い年月を
かけてあなたに
復讐してまいります。

ちなみに
旦那様と奥様は
海外出張で数年
は帰ってこないの
で安心してくだされい。





